



福島医大ふくしま子ども・  
女性医療支援センター 教授

横山 浩之氏

先月の記事では、「早寝・早起き・朝ごはん」や「メディアの制限」といった子育てによることを守らないことが、マルトリートメント（子どもを叱り続けたり、虐待）に相当する可能性があります。

マルトリートメントがひとことではない例として、しつけの問題を取り上げたいと思います。例えば、しつけのために子どもを叱り続けたり、危ないことをしたときに体罰を与えていたりするには、子どもにどんな影響を与えるのでしょうか。

守れないときには、お尻をたたくルールにしました。うそについて言い訳が続くときに、お尻をたたいた覚えがあります。ところが、前回紹介した友田明美教授によれ

# お尻たたき効果なし

ドイツ留学中のことで、子どもの授業参観時に、児童が何回注意しても静かにしないと、教師がお尻をたたいていました。日本なら懲戒免職ものです。ところが、懇談会でも全くこの話題は出ませんでしたし、保護者も気にする様子はありませんでした。翌日、先生に聞いてみたところ、ごく当たり前のこととのことでした。逆にやらなかつたら、しつけをしないとした、保護者に糾弾されるとのことでした。なるほどと思い、我が家も三回注意してもルールを

守れないときには、お尻をたたくルールにしました。うそについて言い訳が続くときに、お尻をたたいた覚えがあります。子どもをしつけていったらよいのでしょうか。さまざまな手法があります。さまざまな手法により、体罰が長期的には効果がないことを示しています。

では、どのようにして、子どもをしつけていったらよいのでしょうか。さが、私はペアレントトレーニング手法を用いています。これは、ほめてしつける手法です。今後の連載で、紹介したいと存

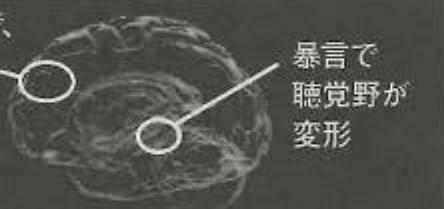
## 子どものしつけ

**体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼします。**

脳画像の研究により、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に様々な変化を生じていることが報告されています。親は「愛の鞭」のつもりだったとしても、子どもには目に見えない大きなダメージを与えているかも知れません。

### ●子ども時代の辛い体験により傷つく脳

厳しい体罰で、前頭前野が萎縮



提供: 福井大学 友田明美教授

・厳しい体罰により、前頭前野（社会生活に極めて重要な脳部位）の容積が19.1%減少  
(Tomoda A et al., Neuroimage, 2009)

・言葉の暴力により、聴覚野（声や音を知覚する脳部位）が変形  
(Tomoda A et al., Neuroimage, 2011)